

【名称】 青丘社 ほっとライン

【住所】 川崎区桜本 1-8-22 【電話】 044-270-6127

【管理者】 湯浅利啓

【居宅介護支援員】 湯浅利啓 姜玲玉 張順子 李契順

【訪問介護・管理者】 張順子

【サービス提供責任者（主任ヘルパー）】 金裕美、高橋明美、小林弘子

【スタッフ】 常勤職員 8 名（内 介護福祉士 7 名）

登録ヘルパー 21 名（内 介護福祉士 7 名）

【活動報告】 契約利用者の高齢化により、全体として重度・重篤化傾向が進み、入退院、入所等の大きな変化への対応場面が増えている。利用者・家族の多重化する困難（認知症、うつ、アルコール依存症、人格障がい、経済破綻、介護疲労等々）に試行錯誤を重ねながら一番身近で寄り添い、生活主体としてその人が望む選択を行えるよう支援している。医療依存度が高いまま在宅生活を余儀なくされる利用者は増加しており、直接的な援助だけでなく、医療機関、福祉施設、行政と連携しながら情報提供等を含む広範な支援を行ってきた。また、豊かさの内容が問われる生活援助が、住み慣れた地域で暮らし続ける上で重要な支えとなっている。こうした利用者の多様なニーズに丁寧に応えるため、部署毎の研修により、知識・技術の研鑽に努めた。在日コリアン高齢者の生活課題に取り組んできた経験を全体化していく試みを行っている。レベル毎に会議を持ち、各部署内・部署間の連携を密にし、日々刻々変化する利用者の状態に対応できるよう体制作りを行っている。ほっとライン複数部署の事務所機能を集約することで、部署間連携を強め、マンパワーの効率化を図っている。

◆居宅介護支援 実績

利用者数推移（件数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
78	79	76	81	81	82	80	81	78	75	73	76

◆訪問介護 活動実績

<高齢者>

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	要支援1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1
	要支援2	3	2	2	2	3	3	3	3	3	4	3
	要介護1	16	17	17	15	14	14	14	13	13	13	13
	要介護2	9	8	6	8	10	11	11	10	10	11	10
	要介護3	9	8	9	8	8	8	7	7	7	7	6
	要介護4	2	3	2	3	4	4	5	5	5	6	5
	要介護5	4	5	5	5	4	5	5	5	4	4	4
	合計	44	44	43	44	46	47	47	45	44	46	45
提供時間	737.30	733.455	718.35	691.05	658.35	722.2	748.50	714.10	655.30	610.25	593.05	663.25
派遣回数	705	686	687	652	637	710	750	725	686	619	606	667

<障がい者>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
居宅介護	身体	利用者	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	
		派遣時間	10.0	10.5	11.5	11.0	12.0	11.5	11.0	9.0	7.5	11.5	10.1	18.0
	家事	利用者	3	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	6
		派遣時間	22.0	26.0	35.25	28.5	34.5	36.75	37.0	60.75	59.25	60.5	67.25	69
	通院介助	利用者	5	5	4	5	5	4	5	5	4	3	3	4
		派遣時間	7.0	10.0	15.25	14.0	15.0	13.5	11.5	13.25	12.0	9.5	7	55
重度訪問		利用者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		派遣時間	20.0	16.0	20.0	25.0	21.0	17.0	27.0	16.5	23.5	9.5	8.0	6.0
行動援護		利用者	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
		派遣時間	108.0	117.0	91.0	101.5	117.0	113.0	127.5	100.5	116.0	110.5	91.5	106
移動支援		利用者	6	6	6	6	5	7	6	6	8	7	7	

	派遣時間	106.65	106.0	105.0	111.5	95.5	106.5	107.5	108.25	117.75	117.5	88.0	127.5
あんしんサポート 通所・通学	利用者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
	派遣時間	10.5	10.5	12.0	11.5	8.5	10.5	10.25	11.0	11.5	10.5	7.5	18.5
	利用者					1	1	1	1	1	2	2	1
	派遣回数					8	1	7	2	3	27	43	31

※障がい者居宅介護のヘルパー派遣については、障がい児を養育している保護者にも障がいがあり、家庭生活の維持が困難な状況にある場合には、関係各所と連携を取りながら総合的な支援を行っている。

【名称】 青丘社 ほっとラインデイサービス（地域密着通所介護）

【定員】 10名

【住所】 川崎区大島 3-33-4 ベリタス原田 【電話】 050-3333-8196

【管理者】 小村麻有

【生活相談員】 小村麻有、田中佳代子

【スタッフ】 非常勤、月契約スタッフ 7名（機能訓練指導員1名含む）

【活動報告】 介護保険の制度改正にともない地域密着通所介護になり、以前より地域に密着したサービスを大事にしている。総合事業として要支援の方も利用されている。

日々変化する利用者の状態にすばやく対応出来る体制作りを強化し、ご家族の介護軽減、また、独居の方の支えとなる援助を心掛けた。ご利用者の人格を尊重し、一人ひとりのニーズに合わせた援助の実践、身体機能低下予防・日常生活訓練、回想法、カラオケ、レクリエーション等工夫している。新しく取り入れたアロマハンドマッサージは好評であった。

隣接の認知症対応型通所介護との交流により、スタッフ・利用者共に活気づいて交流の輪が広がり、利用者のプログラム参加が積極的になり、病状改善、認知症予防防止に繋がっている。

安心できる居場所、家庭的で母国語でも会話出来る場所を提供し、豊かな生活が送れるように日々支援している。

好評の食事は、韓国料理だけではなく洋食も含め栄養バランスを考え、行事食や季節に合わせたメニュー作り、個々の嗜好も取り入れ提供出来る様に努力している。

また、ウリマダンとの交流を週1回水曜日の午前に行うことと一日温泉外出、クリスマス会などを一緒に行うことにより、新鮮な時間が作られるようになり生き生きと活動している。

（平均年齢85.5歳 90歳以上6名）

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	①7時間以上	39	34	36	32	29	33	31	37	29	27	37	22	386
	②5時間以上7時間未満	110	124	106	114	111	112	141	130	142	124	123	124	1461
	③5時間未満	18	19	24	19	25	21	17	26	21	22	12	46	270
総合事業	③5時間未満	0	0	0	0	0	5	4	4	4	4	4	5	30

【名称】 青丘社 ほっとラインデイサービス（認知症対応型通所介護）

【定員】 11名

【住所】 川崎区大島 3-33-4 ベリタス原田 1階 【電話】 050-3333-8196

【管理者】 金成美

【生活相談員】 金成美、白崎真由美

【スタッフ】 非常勤、月契約スタッフ 5名（機能訓練指導員2名含む）

【活動報告】 同一敷地内に地域密着通所介護と認知症対応型通所介護を隣接させることにより、提供サービスの効率化を図っている。うつによるひきこもりの方、認知症で多人数が苦手な方、孤独感の強い方など、様々な問題を抱えている人の立場に寄り沿って、その人らしく過ごせるように、利用時間をご本人の大切な時間として考え、毎日スタッフが工夫しながら様々なプログラムを一緒に行ってきた。認知症対応型デイサービスでは、これまでの取り組みを活かしつつ、更に認知症ケアに特化した実践を積み重ねている。

特に赤ちゃんや子供と触れ合う時間を多く作った。赤ちゃんの「癒しパワー」で心から

の笑顔があらわれ、表情が豊かになるなど、大きな効果が見られている。この取り組みからはスタッフも学ぶことができ、効果は双方向となっている。

制度の中でのサービスにこだわらず、自由な発想から自由な対応を目指している。

また、ウリマダンとの交流を週1回水曜日の午前に行うことと、一日温泉外出、クリスマス会などを一緒に行うことにより、双方の刺激となり新たな楽しみと認知症の予防に繋がっている。

(平均年齢 85.6歳 90歳以上 4名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	②5時間以上7時間未満	119	123	130	124	132	127	129	121	110	114	115	129	1473
	③5時間未満	6	5	8	8	6	7	6	7	11	10	10	13	97

【名称】川崎市障がい児タイムケアモデル事業

(田島支援タイムケアセンター)

【住所】①田島支援タイムケアセンター(月～土) 川崎区池上新町 1-1-3(田島支援学校桜校内)

*①使用出来ない時には、下の②、③の場所を使用した。

②渡田タイムケアセンター 川崎区渡田 1-15-5(渡田こども文化センター内)

③桜本コミュニティセンター 川崎区桜本 1-8-6

【電話】事務所(ほっとライン): 044-379-1037 専用携帯: 090-5443-4671

【実施日時】月曜日～土曜日

放課後～18:00、土曜日及び長期休暇中 10:00～18:00

【定員】1日 10名程度

【管理者】相 啓一

【スタッフ】常勤2、非常勤15

【活動報告】タイムケアモデル事業は、川崎市の委託を受けて障がいのある中・高生の放課後や夏休み等の長期休暇中の余暇活動の充実を図ることを目的に実施している。

タイムケアが2020年3月末までに終了することもあり、新規利用者登録は少なかった。

利用者の理解と支援の質の向上のため、スタッフ間でのミーティングや情報共有、勉強会を積極的に行なった。

【タイムケア事業実績】

2016年度(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
登録人数	50	50	50	51	51	51	51	51	51	51	51	51	
実施日数	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293
延べ利用者数	255	223	255	250	238	212	215	210	229	215	242	287	2831
送迎回数	371	334	368	352	361	316	312	305	346	329	367	433	4194

【名称】障がい児・者相談支援事業

【住所】川崎市川崎区桜本 1-8-22

【電話】事務所(ほっとライン): 044-379-1037

【実施日時】月曜日～金曜日

9:00～18:00

【管理者】姜玲玉

【スタッフ】相談支援専門員 常勤1(兼務)

【活動報告】2017年3月現在で契約者数は34名。内訳は障がい福祉サービスのサービス等利用計画を作成する等の計画相談支援16名、障がい児支援利用計画を作成する等の障害児相談支援18名となっている。

2016年度も法人各事業との連携を図ってきた。また、川崎市や川崎区の地域自立支援協議会に参加して、他事業、多職種の支援者をつなぎ、制度の改善や地域の課題解決にも取り組んできた。

相談支援専門員の複数配置が課題となっており、次年度から2人体制(兼務)とする予定になっている。

【名称】日中一時支援「そら」

【住所】川崎市川崎区桜本 1-8-22

【電話】044-379-1037

【実施日時】 未就学児 9:00～13:30
 学齢児放課後～17:30（その後送り）
 長期学校休業日 10～17:30
 成人 15:30～18:00

【定員】 1日当たり 10名

【管理者】 中根正一

【スタッフ】 10名

【活動報告】 2016年度より、さくらもと保育園との連携により「交流保育」を活動の中心とした就学前の受け入れを開始した。保育園の一時保育利用児2名が週1～2回利用し、保育園での生活が広がった。学齢児は放課後等デイサービス事業所が増えていることから新規受け入れはしていない。

18歳以上の成人については生活介護等、通所の事業所の終了時間が15:30と早いため、保護者の就労や疾病、本人の安定のためなど、夕方の活動の必要性が高い利用者を中心に引き続き受け入れをしている。成人の夕方支援のニーズは、毎年放課後等デイサービスなどを利用してきた高等部卒業者が増える一方だが、当事業の受け入れ人数を毎年増やすことは困難な状況がある。区内の保護者が中心となって通所支援事業所の延長などを求めて川崎市への請願活動などを行っている「障がい者の夕方支援を考える会」の事務局を青丘社ほっとライン内に置き、「川崎市による問題解決」への動きの支援を行っている。

【2016年度事業実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
幼児	12	6	14	8	11	12	12	12	9	10	9	14
学齢児	42	45	45	40	30	35	44	43	42	38	43	41
成人	40	36	40	37	33	35	34	33	28	32	35	43
合計	94	87	99	85	74	82	90	88	73	80	87	98

【名称】 放課後等デイサービス「ちえりー」

【住所】 川崎市川崎区桜本1-8-6 【電話】 044-276-8082

【実施日時】 学齢児放課後～17:30（その後送り）
 長期学校休業日 10～17:30

【定員】 10名

【管理者】 中根正一

【児童発達支援管理責任者】 齊藤ゆみ子

【スタッフ】 23名

【活動報告】 2016年4月より保護者の要望により土曜試行開室4名が利用。平日、土曜共に利用希望はあるがスタッフが確保できず、希望通りの利用はできていない。

区内放デイ全体での肢体不自由児の受け入れ比率が少ないため少しずつちえりーでの肢体不自由児の比率は上がっている。6月には利用者が階段より転落する事故があり、利用者の見守り体制の見直し、階段の安全性向上の工事を行った。スタッフ中7名（3月在籍数）は小中学生期青丘社利用者で、地域の青年が活動を支えてくれている。

【2016年度事業実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
放課後等デイ 小中生	212	203	237	221	223	226	219	204	210	206	209	242

【名称】 共同生活援助 虹のホーム（定員3名 利用3名）

共同生活援助 第二虹のホーム（定員6名 利用6名）

【住所】 川崎区桜本2-45-1【電話】 044-277-0223（虹のホーム） 044-266-3470（第二虹のホーム）

【管理者】 姜 玲玉

【サービス管理責任者】 川本創一

【スタッフ】 世話人6名 生活支援員13名

【活動報告】

◆利用者

虹のホーム（男性）：年間通して利用状況・入居メンバーに変動無し。

虹のホーム第二（女性）：5月末1名退所（転出）。10月より新規利用者入居、経過順調。／前年度に続き通院同行回数が増加。／利用者1名が一般就労し、月の勤務日数も徐々に増え、安定。

◆スタッフ体制

前年(2015年)11月より勤務の新世話人は定着して業務習熟し、スタッフの人員にも変動がなく、男女ホームとも利用者の生活は落ち着いている。

◆生活・環境

【行事】利用者誕生会は従来通り開催、両ホームの交流の機会となっている。／メンバー全員対象の日帰り旅行は11/5(土)福祉バスで富士サファリパーク。

【防災・訓練】上半期開催せず。下半期は自火想定で実施(10/19)

【利用状況】

◆開業日(宿泊曜日)=通常月～金 ◆利用時間帯=16:00～翌10:00(土のみ～13:00)

◆通常外の利用=要望に応じ土曜、日曜宿泊有り。 ◆公休=12/29～1/3年末のみ。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
虹のホーム (定員3名)	開所日数	28	26	26	26	27	27	26	26	26	24	24	27
	利用日数	71	70	72	70	77	69	72	72	69	66	69	74
第二 虹のホーム (定員6名)	開所日数	28	26	26	26	27	27	26	26	26	24	24	27
	利用日数	127	126	114	105	98	115	136	125	131	129	130	144
合計 (のべ)※	開所日数	234	234	234	234	243	243	234	234	234	216	216	243
	利用日数	198	196	186	175	175	184	208	197	200	195	199	218
利用率		85%	84%	79%	75%	72%	76%	89%	84%	85%	90%	92%	90%

【名称】障がい者就労支援 地域活動支援センター スペースほっと&ほっとカフェ

【場所】川崎区桜本1-8-10 【電話】044-288-5141

川崎区桜本1-7-24 【電話・FAX】044-276-8093

【管理者】金恵玉

【スタッフ】常勤3名 非常勤1名 調理スタッフ3名 サービス管理責任者1名

【障がい就労者】11名(川崎市)2名(横浜市)

【活動内容】

作業内容	取引先
日替わり弁当づくり	学校・地域・病院・施設・法人内
会議用弁当づくり	得意先・法人
手作りおやつ提供	わくわくプラザ3校
デイサービス昼食提供	法人デイサービス
グループホーム夕食提供	法人グループホーム
夕食用お弁当配達	地域
オリジナルスイーツ製造販売	保育園・地域
キムチ製造販売協力	地域・法人内
ひとかごグッズ販売	地域

5月	・レクレーション 東扇島マリエン BBQ ・法人歓送迎会参加 ・まちなか絵画教室
6月	・まちなか絵画教室 ・桜本中学職業体験実習生受け入れ
7月	・ゆめコープ市民応援プロジェクト参加 海老名リコーフェューチャセンター
9月	・まちなか絵画教室
10月	・まちなか絵画教室スケッチ遠足(赤レンガ倉庫) ・南部就労支援センター就労体験実習参加

	・ハロウィンオリジナル商品販売
11月	・日本の祭り出店 ・まちなか絵画教室
12月	・まちなか絵画教室 ・クリスマス会参加（絵本読み語り・楽器演奏） ・忘年会
2月	・まちなか絵画教室 ・法人懇親会参加（東京スカイツリー） ・スペース PAZ 出店 ・田島支援学校実習生受け入れ ・日本精神保健福祉政策学会大会用お弁当販売
3月	・まちなか絵画教室

【活動報告】スペースほっと&ほっとカフェでは、『働く場所』としてメンバー一人一人が働くことに対する意欲や自発的に仕事に向き合えるようサポートを行ってきた。個別対応を重視し、相談・面談などを重ね、相談支援や各部署、ご家族との連携を密にし、メンタル面・健康面に焦点をあてながら、作業内容の工夫や見直しなど、特性に合わせた就労援助を目標としてきた。今年度新規利用者として3名が加わり、長年在籍したメンバー1名が障がい者雇用で就職をした。また、関係機関と連携を図りながら、職業体験に2名が参加し継続的な取り組みとなっている。職種の違う体験を通して、自分の可能性や興味を引き出し、見えてくる世界を体感することができる貴重な経験である。短期間雇用の枠も視野に入れ地活と併せて働き場が広げられるよう積極的に取り組んでいきたい。また地活が職業体験の現場として田島や鶴見支援学校また地域の桜本中学の学生を受け入れている。今年は3つの地活で行政関係機関からの就労体験実習の受け入れも例年以上に多く行った。また、働くという位置づけ以外にも、3つの地域活動支援センターと連携協力し合いながら、余暇活動などの充実を図るなど。そしてスタッフの対人援助としてのスキルアップ研修や、スタッフとメンバーと一緒に学ぶ外部研修なども定例化していきたい。余暇支援の一環として行っている『まちなか絵画教室』は今年で4年が過ぎた。現在10名の生徒がキミ子方式で絵を描いている。描くことで自己を表現することの楽しさを知り、メンバーたちにとって充実した時間となっている。ご家族の方を招いての作品展も定期的に行われている。2016年の反省としてスタッフとメンバー一日研修が年度内に行うことができず、2017年4月に前年度分の研修として行った。年間計画を立て、今後はこのようなことがないようにしていきたい。

【名称】地域活動支援センター ほっとカフェテリア パン工房

【所在地】川崎区浜町 1-9-14 アカツキビル 1階

【電話】050-3399-5411 【FAX】044-333-8624

【管理者】豊田民珠

【スタッフ】常勤2名（うち1名産休中） 非常勤1名 パート支援員2名 事務専任パート1名

*バックアップ=金恵玉（マナ）

【障がい就労者】8名

【活動内容】

4月	週一度桜本保育園・ふれあい館・わーくす大師・川崎南部療育センターでの販売 毎週金曜日ペルーランチ販売継続
5月	・レクレーション 東扇島マリエン BBQ ・川崎信用金庫本店「ふれあい市場」パン販売参加
6月	・ふれあい館まつり パン販売
7月	・ゆめコープ市民応援プロジェクトパン販売 海老名リコーフェューチャセンター ・チネチッタパン販売
8月	・東山荘 YMCA フィールドワーク パン販売
9月	・レクレーション ハワイアンセンター
10月	・まちなか絵画教室スケッチ遠足参加

	・南部就労支援センター就労体験実習参加
11月	・ふくしま祭り出店 ・日本のまつり出店 ・パン教室開催(2回)
12月	・クリスマス会参加(絵本読み語り・楽器演奏) ・忘年会
1月	・田島プラザふくしま祭り 販売参加
2月	・スペースPAZ 販売参加 ・法人懇親会参加(東京スカイツリー)
3月	・さくらっ子パン販売開始

【活動報告】昨年度から課題になっていた喫茶事業の展開はできなかった。常勤スタッフが産前産後休業をとるにあたり、多文化ランチのヘルプ要因として非常勤スタッフが入り、協力体制を強化したことやパン工房メンバーが積極的に手伝う体制が確立されてきたことで、多文化ランチが継続して行え、販売数を維持することができた。今後は喫茶業務展開にむけてキッチンの管理や在庫管理などメンバーが積極的に関わられるよう更に工夫をし、喫茶事業にむけてのイメージを膨らませながら、ポスティングや宣伝活動を行えるよう計画をしていきたい。製パン事業について、安定したパン作りが美味しさにつながり地域のリピーターが増えてきている。またメンバーによる製パンづくりの作業分担が自主的に行えている。パンの販売先を増やすことを課題とし、メンバーが今より更にパン作業に関われるようにしていきたい。また今年は相談機関を通して実習受け入れなどの要望も多かった。今後とも連携を図っていきたい。次年度にむけて新規利用者を増やす計画をたてる中、日常現場で抱える困り事や問題などを事例として話し合う環境を整え、メンバーに対する理解を深めていく機会をつくることでスタッフの対人援助技術向上を目指したい。

【名称】地域活動支援センター ほっとスペース マナ

【場所】川崎区桜本 1-9-9 【電話・FAX】044-589-3108

【管理者】金恵玉

【スタッフ】常勤2名 非常勤2名

【メンバー】13名

【活動内容】手芸教室 パソコン体験 スイミング活動 調理活動など

【活動報告】2015年10月より『居場所づくりと社会参加』多様な背景文化をもつ者たちにとっての居場所として開設されたほっとスペースマナは2年目を迎えた。現在は13名のメンバーが通所している。手帳の有無にかかわらず、支援が必要な方が利用することができるため、これまでサービスにつながっていなかった方にとっても「居場所」として利用していただくことができている。今年は具体的な取り組みを数多く行った。地域に開かれている場所としてセンター的な役割機能として始めた【こども食堂】は8月をプレオープンとし9月より定期開催を3週間毎に行っている。困難を抱える若者や障がいを持つメンバーたちがボランティアとして活躍しており、こどもたちを迎え入れる吸引力となっている。また、地域に向けて、劇団トル『在日バイタルチェック』を桜本で観る実行委員会を6月に立ち上げ、地域住民や有志たちと10月実行にむけて準備開催を行った。高齢者事業の一環として、ウリマダンとマナとの合同料理会なども行っており定例化を図っていきたい。その他には、マナ手作りキムチ販売、遠足企画、フリーマーケット開催、研修参加などの活動イベントなどが取り組みとしてあげることができる。また、法人内や他事業所・保育園からの外部委託作業を受託することで、職種経験を広げる働き掛けや、受託で出た授産利益を就労訓練費としてメンバーに還元することができたことは大きな成果として挙げられる。社会参加に向けて一步を踏み出せる場所としてのマナの働きを広げていきたい。人と繋がることで得ることができる自信や安心感、自己肯定感など、コミュニティワークを通して生まれてくる関わり合いを大切にしながら、支援体制の強化を図ること。CW、相談支援、関係機関等とサポート体制を構築することで安定的な支援を目指す。地域と繋がり地域社会に参加していくことができるよう、地域に開かれたプログラム企画なども次年度へ向けての活動として3つの地域活動支援センターと協力しあいながら取り組んでいきたい。